

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記号)】			
事業所番号	4292400027		
法人名	社会福祉法人 真和会		
事業所名	グループホーム あしたば		
所在地	長崎県雲仙市瑞穂町伊福甲675番地669番地		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染対策により、なかなか外出や行事等にも制限がありましたが、なるべく皆様に楽しみを持ってもらえようように出来るだけ季節の行事を取り入れて楽しみを持っていただけるように努力しました。又、ご家族様との信頼関係の構築に力をいれ、細かい事でも報告するようにしてます。今後も入所者の皆様に安心して生活していただけるように健康管理を行っていきます。又皆様が満足されるように手作りの料理を提供していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは雲仙・多良岳が一望でき、眼下には有明海を望める高台に位置している。自然豊かで四季折々の表情が見てとれる環境にある。理念である「地域の中で普通に暮らし当たり前に自分らしく生きていく」をもとに、職員は入居者がしたい事は可能な限り叶えることを念頭にケアを実践している。食事は冷凍食品を使用せず、職員が手作りで旬のものを提供し、食事を通して季節を感じてもらい、食器は陶器のものを使用するなど、入居者が日々食事を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。管理者は家族との信頼関係の構築に努め、報告や連絡を密に行っている。管理者を含め職員のチームワークが良く、互いに意見を出し合える関係で、働きやすい職場環境を整えている。アセスメントツール「私の姿と気持ちシート」を活用し、職員は入居者の気持ちや状態を細かく把握しながら、より良いケアの実践に努めており、入居者及び家族にとっても安心できるホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼後グループホームあしたばの理念である「地域での中で普通に暮らし当たり前に自分らしく生きていく」を全員で唱和し共有している。	ホームの理念をもとに職員が一人ひとりキャリアシートを作成し、目標を立案している。職員は年度前期と後期に、施設長、事務長、介護主任と面談を行い、目標達成度の確認を行うと共に、理念を振り返る機会となっている。理念に基づき、入居者がしたい事をできる限り叶えられるよう支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前は地域の祭りや保育園の運動会 文化祭などに参加し交流を図っていたが感染拡大により、行事自体が中止となり参加交流ができていない。	コロナ禍前はホームが地域の運動会などに招待され、入居者が参加していた。また、ホームに中・高校生の職場体験の受け入れを行っていた。引き続き、地域の方から野菜を頂いたり、職員を通じて介護の相談を受けるなど、地域住民と日常的に交流を持っており、良好な関係を構築している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの関係で実地できていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催で委員の皆様にご利用状況・行事ヒヤリハット、事故報告を行っているが今年度もコロナ関係で資料配布するときもあり、その時にはご意見を頂いている。	運営推進会議はコロナ感染状況に応じて書面会議に切り替えている。書面会議にて行う際にも委員から意見を求め、質疑応答等の結果については次回の会議で報告している。運営推進会議に参加する入居者家族は、年度毎に各ユニットから1名ずつ選出し、会議に参加してもらい、様々な角度からの意見を聴取しながら運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ窓口で質問したり、電話で確認するなどしている。また、推進会議に参加してもらい協力関係を築けるようにしている。	介護保険の更新や入居者の手続き等で市の窓口を訪問した際に、担当者との情報交換を行っている。職員は市や県が主催する研修会に参加しており、最近では認知症の方の口腔ケアや排泄ケア、夜間のリスクマネジメント等の研修を受け、スキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で月1回の委員会を実施した、職員会議で勉強会を行い身体拘束廃止の取り組みを行っている。	ホームでは身体拘束や虐待に関する指針を整備し、毎月法人内の身体拘束虐待防止委員会に参加して職員間で情報共有を図っている。定期的な内部研修や外部研修会に参加し、常に身体拘束を行わないケアの実践に努めている。スピーチロックにも配慮し、多忙な際も入居者への声かけに留意し支援に努めている。	今後、虐待防止に関する事項についても運営規程に明記し、ホームにおける虐待防止の取り組み等を家族へ説明する取り組みに期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止の取り組みと同様に実地している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば研修会にも参加し知識を深めたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすく説明し同意を頂いている。長期入院などによる解約時はご家族へ不安を与えないよう説明し理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望の窓口を設置している。また第三者委員を配置し年に1回報告会を行っている。	職員は入居者との日常会話から意見や要望を伺い、家族には電話や面会時に入居者の状況を伝え、意見等を伺っている。コロナ禍にて面会の要望に関することが多く、ガラス越しの面会やパーテーション越しの面会などコロナ感染状況に応じて対応を変更しながら、その都度家族へ知らせ、面会しやすい環境整備に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の会議や勉強会の中で意見を出し合い対応している。	日常の業務中や、毎月のユニット会議を通じて職員の意見を汲み取っている。職員より制服の変更に関する要望が挙がったり、人員不足を考慮し業務内容を変更するなど、必要に応じて職員の意見を取り入れながら迅速に対応している。介護の資格取得についても勤務調整や費用負担など協力体制を構築している。	ホームで職員意見を円滑に反映させていく為にも、ハラスメント対策を強化し、指針の策定や相談窓口の設置、研修の実施等、ハラスメント体制の整備に向け具体的に取り組むことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回のキャリアシートを使用し人事考課やフィードバック面接を行い、希望 意見を聞けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍において外部研修への参加は難しいがリモートでの研修参加はできている。また、月1回の内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会主催の研修会など、コロナ禍で実地できない状況である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本状況をもとにある程度の生活歴などを把握しコミュニケーションを図りながら本人の希望や不安に対応できるように対応できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する段階で困っている事はないかこうしてほしいという要望を出しやすい環境を設定し意向も含め聴取し信頼関係を育んでいけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を得たうえでまず第一に必要としている支援を見極め最優先し他サービス職種との連携を図りながら可能な限り柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様がこれまで培ってきたものを尊重し受け身サードnならない様支え合え関係を心がけ学び合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時とかケアプラン作成時には日ごろの様子を報告し信頼関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で地域の行事などへの参加や交流が自粛されている中で顔なじみの方との交流が途絶えない様、タブレットなど通信が利用できるよう配慮している。	コロナ禍による窓越しの面会の際は、家族や入居者の声が聞こえにくい為、職員が間に入って円滑にコミュニケーションが図れるよう配慮している。入居者が親族等へ年賀状を出したり、荷物と一緒に手紙を送る支援を行い、馴染みの関係を継続できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係・関わりを観察し食席やリビングでお互いに過ごしやすいように関わり見守りながら自然体で支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関などへの利用が契約終了となっても継続的に連携との情報交換を行い、継続的に関わりが保てるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で関わっていく上で利用者の思いや意向を聴取し把握に努めている。聴取困難な場合は利用者本位で検討している。	職員は入居者と日常会話をしながら思いや意向の把握に努め、把握した情報は、入居者の不安・要望・うれしい事・かなしい事など、多数の項目に分けたアセスメントツール「私の姿と気持ちシート」を活用し、職員間で共有している。シートは個人ファイルに閉じ、いつでも閲覧、更新できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より生活歴や生活環境など経過を聴取し「暮らしのノート」を活用し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用開始時やその後の面会時本人や家族から1日の過ごし方や心身状態の状況や日常生活の中で出来る事などの情報の聴取に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの要望や意向を伺い主治医からの意見も含め職員と共によりよいケア内容を話し合い現状に即した介護計画書を作成している。	各職員は入居者2名程度を担当し、毎月の職員会議に合わせてケア会議を行っている。担当職員が介護計画の原案を作成し、職員間で話し合った上で計画作成担当者が介護計画を作成している。作成した介護計画は全ての職員が把握し、より良いケアの実践に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って職員間のケアの統一を図り、実践し記録・モニタリングをし、情報の共有や介護計画見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況の意見など、その時々で本人や家族と相談しながら柔軟な支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の力を発揮しながら豊かな暮らしを楽しむことができるように地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族と相談し適切な医療が受けられるよう協力医の他に入所前のかかりつけ医にも相談し医療が受けられるよう支援している。月に1回は受診している。	入居後、かかりつけ医を継続する事も、入居時にホームの協力医へ変更する事も可能である。遠方の病院への受診は、家族が同行することを基本としていたが、現在はコロナ対応として職員が受診に同行している。受診結果は個人記録に記載し、職員間で情報を共有している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設に看護師は在籍していないので母体施設の看護師の協力を得られるよう普段から情報を伝え相談している。また、体調の変動等は主治医へ報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、出来るだけ早期退院できるように、また安心して治療をできるようサマリーを提出し情報を共有し支援をしている。連携室や家族と相談しながら退院時への相談を行いながら関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状態によりグループホームでの対応が困難な状態になるような場合は家族・医療機関と相談しながら本人によりよく過ごしていただけ今後の方針など相談し支援している。	ホームで看取り支援は行っておらず、入居する際に、医療が必要な状態になった場合は、主治医と相談し病院へ入院や、他施設へ移動して頂く旨を説明し、家族より同意を得ている。看取り支援は行っていないが、法人内の研修に参加したりAED講習を受け、急変時に対応できるよう態勢を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用時の急変時や事故発生時に備えすべての職員に対し定期的に勉強会を行い、応急手当や初期対応の訓練を行い実践力を身につけて対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	法人内で定期的に避難訓練を行い、協力体制を取っている。災害についても勉強会を定期的に行っている。スプリクラ―の設備や消火器・警報装置など設置している。	同法人と連携を図り、災害等に迅速に対応できるよう定期的に避難訓練を行っている。訓練時は職員の勤務を調整し、新人職員を含む全ての職員が参加できるようにしている。法人全体で行う災害(地震)訓練に参加し、火災だけでなく、自然災害時も迅速に行動できるよう努めている。	今後、自然災害や感染症など、不測の事態が発生しても重要な事業を中断させない、または中断しても可能な限り短い期間で復旧させるための業務継続計画(BCP)の策定に取り掛かることが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応・関わり方など一人ひとり尊厳を持った姿勢で意識し対応している。排泄や入浴時などプライバシーを損なわないように支援している。	排泄時や入浴時には必ずカーテンを閉め、バスタオルを使用するなど、入居者の羞恥心やプライバシーに配慮し対応している。職員はEラーニングを活用して接遇研修を受け、入居者のプライバシーの確保に努めながら、職員のスキルアップに繋げている。	ホームだよりなど入居者の写真を掲載することに関し、家族へ口頭で説明し同意を得ているが、今後は写真掲載など個人情報の使用に関し文書として残すことが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人と関わりを増やしその都度コミュニケーションを取りながら思いや要望・意向などについてもいつでも話をできるように信頼関係を築けるよう努め支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで好きな活動などへ参加できるよう強要せずに声かけし自室に閉じこもらないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でみだしなみができるよう化粧水やクリーム・ブラシ・手鏡などいつでも整えられるよう届く範囲に設置して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように器への配慮や嫌いなものや食べきらないものは代替え品を提供している。お盆拭きなど負担にならない程度で職員と共にやっている。	食事はホームで献立表を作成し、栄養面などを同法人の管理栄養士に確認してもらい提供している。ゴボウのさがきや、茶碗洗いなど、入居者ができることは職員と一緒に行うことで入居者の出番があり、やりがいに繋げている。食事を通して楽しみを持てる支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の管理栄養士に日々の献立のカロリー計算をしてもらい栄養が偏らないよう支援している。食事摂取量は毎食記録し摂取量が少ない時はその方の好みに応じて補助食を提供し摂取量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを自分で出来る方は行ってもらい、不十分な所の磨き仕上げを職員が行っている。全介助を必要としている方はモアブラシなどを使用し口腔内に残渣はないか確認し口腔内の状態観察を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らせるよう、時間をみての声かけ、介助で排泄パターンを把握している。その方の排尿量に合ったパットを選択し排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員は入居者毎の排泄記録を確認しながら声掛け・誘導を行っている。毎月の職員会議を通じて意見を出し合い、入居者の状態に応じた使用具の検討・選定を行っている。居室のポータブルトイレにはカバーを掛けプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医とも相談しながら便秘の予防を行い、水分や食べ物などへの配慮を個々に工夫を行っている。運動不足にならないよう運動量の確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人からの入浴に対してに希望や要望を聴取し週3回の入浴を行っている。体調や本人の希望に合わせて柔軟に対応できるよう支援を行っている。	夏場は週3回、冬場は週2回の入浴を基本としている。本人に体調不良や入浴拒否などがあった場合は、時間を変更したり、日にちを変えるなどしながら対応している。菖蒲湯など入浴を通して入居者が季節を感じられるよう工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、ゆっくりすごせるように傾聴したり、柔軟に対応している。夜間も安眠できるように照明や空調などその方に合った調整を行って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容を把握し適切な服薬介助を行い状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの要望を日々の生活の中に取り入れその人らしく楽しく暮らしてもらえるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って、施設敷地内の散歩を行ったり、季節ごとに行事計画を立て外出したり、気分転換を図っている。現在はコロナ禍により地域の方々との交流はできていない。	コロナ禍により、外部との交流を自粛しているが、入居者がホームに閉じこもらないよう毎日散歩に出かけたり、ドライブにて紅葉見学などの花見に行くなど支援している。病院受診の帰りに入居者の自宅前を通ったり、直売所に寄ったりしながら入居者が気分転換を図れるよう配慮をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族との相談のもと、希望者のみ現金を所持している。要望に応じて家族との相談のもと買い物もできるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば家族との協力を得て手紙や電話のやり取りができるよう支援している。(携帯電話の持ち込みもあり毎日家族への電話が日課となっている方もいる。)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間や移動ルートに障害物となるようなものがないよう安全性に配慮し自室内に馴染みの物を置き家族写真などで居心地の良い空間づくりに努めている。	共用空間は毎日掃除機とモップがけにて清掃を行っている。感染対策として、職員は週2回の検査や定期的な換気と要所の消毒を行っている。担当職員が壁面への季節の飾りつけを計画し、入居者と一緒に作成して飾りつけを行い、室内でも季節を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下などでもゆっくりすごせるようにソファや椅子を設置し利用者同士で思い思いに過ごせるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室の寝具や家具などは本人や家族と相談し使い慣れた物や好みの物を設置し好きな歌などいつでも聴ける居心地のよい環境づくりを行っている。	居室は共用空間と同様、毎日掃除機とモップがけにて清掃を行っている。居室へ寝具や仏壇、家族の写真など馴染みの物を持ち込み、入居者の状態や、起き上がり時の方向などを考慮して配置しており、入居者にとって居心地良く、使い勝手の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレの場所がわかりやすいように表示したり、バリアフリーで安全に移動できるよう自立へ向けた生活ができるよう努めている。		